

花ちゃん、オー君、モンタ博士、フツタ博士のかがくドングリが立ててくる

国立市立国立第七小学校

平成29年10月14日 NO.57 (457)

シイの実を食べ
て、縄文人に
なりましょう！
タイムスリップ
して、縄文時代に
もどろう！



シイの実
ちょうだい！
ちょうだい！

食べられる
どんぐりを
ください！

花ちゃん 「あ！モンタ博士、何をやってるんですか。」

オー君 「フライパンを持って、お料理教室ですか。」

モンタ博士 「そのとおり。縄文時代のお料理教室さ。」

花ちゃん 「縄文時代の？お料理教室？どういうことですか。」

モンタ博士 「この前、5年1組の子供たちと谷保天神に
行った時に、拾えなかったシイの実を
これから食べるということさ。」

オー君 「え！ドングリって食べられるのですか。」

モンタ博士 「ドングリというのは、日本には20種類
くらいあるんだ。その中で、シイの実は
食べられるんだ。シイの実は正しくは、スタジイというブナ科植物の木の実
なんだ。ほかにマテバシイというのも食べられるよ。縄文時代の人たちは、
こういう木の実をたくさん食べていたんだ。」

5年生 「どんな味がするのかな。早く食べたいな。」



モンタ博士「おっと、その前に、少し観察してみようよ。気がついたことを言ってみよう。」

5年生 「色は茶色で、ふつのドングリと同じだな。」

5年生 「形はちょっとちがうみたいだね。ふつうのドングリよりとがっているね。」

モンタ博士「なるほど、いままで自分が見たドングリとくらべてみるというのはとてもいいことだ。くらべることは、『科学のはじめの一步』だね。」

5年生 「それに、モンタ博士。ふつうのドングリって、おわんみたいなものがあるでしょ。でも、このドングリには、そんなものがないよ。」

5年生 「なんだか、着物を着ているみたい。」

5年生 「コートをはおっているみたいだ。」

モンタ博士「そうだね。いろいろなことに気がついたね。それでは、いよいよ食べるか。」

5年生 「でも、ドングリって、虫が入ってないかな。」

モンタ博士「いいこと言うね。さあ、ここで問題だ。」

縄文時代の人はどうやって虫食いのドングリを見つけたのでしょうか。さあ、考えてごらん。」

5年生 「うーん。そうだな。一つ一つ調べたのかな。」

5年生 「それとも、おもさをはかったのかな。」

モンタ博士「いろいろ考えよう。あれこれと想像することも『科学のはじめの一步』だね。」

5年生 「モンタ博士、何かヒントをください。」

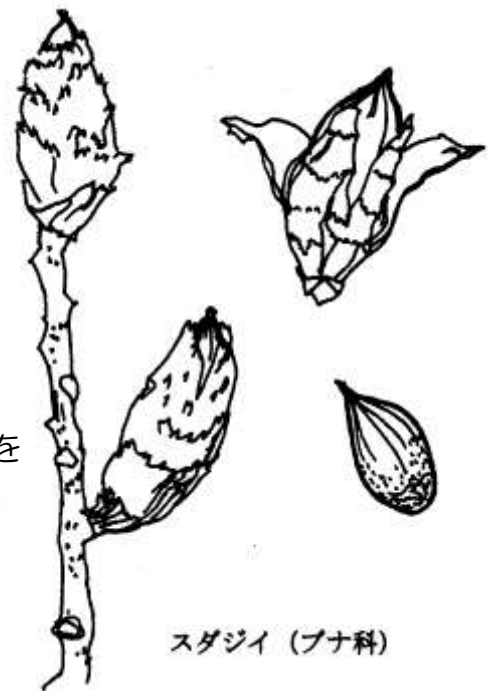
モンタ博士「虫に食われたドングリは、中が空っぽになるよ。そうすると・・・。」

5年生 「そうか。水に浮かべればいいんだ。虫に食われていないドングリはしずむんだ。でも、虫に食われたドングリは、軽くなってうきあがるんだ。」

モンタ博士「ピンポン。そのとおり。よくできました。それではみんなで食べよう。」

5年生 「その前に、どうやってお料理するのかしら。教えてモンタ博士。」

モンタ博士「油も入れずにドングリを少しいるだけさ。われめが見えたらできあがり。熱いから気をつけよう。さあ！みんなめしあがれ。」



スダジイ (ブナ科)

※5年生のJ君情報によると、一橋大学にはスダジイがたくさんあるそうです。また、モンタ博士情報によると、

国立市役所西の谷保第四公園にもあるそう。さあ！みんなで拾いに行ってみましょう！！